

## 第98回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表  
計算書類の個別注記表  
(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

東京テアトル株式会社

連結注記表及び個別注記表につきましては、法令及び当社定款の定めにより、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.theatres.co.jp>）に掲載することにより株主のみなさまに提供しております。

## 連 結 注 記 表

### 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

#### (1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社 8社

札幌開発㈱ほか 7社

前連結会計年度まで連結の範囲に含めておりましたテアトルソフトウェア㈱は平成26年3月に清算終了したことにより、連結の範囲から除外しております。なお、清算までの損益計算書については連結しております。

非連結子会社 0社

#### (2) 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

#### (3) 連結子会社の決算日等に関する事項

連結子会社8社の決算日はすべて連結決算日と一致しております。

#### (4) 会計処理基準に関する事項

重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるものについては時価法（評価差額は全部純資産直入法、売却原価は移動平均法による原価法）、時価のないものについては移動平均法による原価法により評価しております。

たな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

商品及び販売用不動産

販売用不動産は個別法により、その他は最終仕入原価法によっております。

貯蔵品

最終仕入原価法によっております。

重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、耐用年数及び残存価額については、取得時の法人税法に規定する方法と同一の方法によっております。また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、改正前の法人税法に基づく償却可能限度額まで償却が終了した翌年より5年間で残存価額と備忘価額の差額を均等償却する方法によっております。

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、従来の役員退職慰労金内規にならない当連結会計年度末要支給額を計上しております。

#### 建物解体費用引当金

建物解体の支出に備えるため、当連結会計年度末における解体支出の見込額に基づき計上しております。

#### 事業所閉鎖損失引当金

事業所閉鎖に伴う支出に備えるため、当連結会計年度末における事業所閉鎖に伴う支出の見込額に基づき計上しております。

#### 重要なヘッジ会計の方法

##### イ．ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。また、金利スワップの特例処理の要件を満たす場合には、特例処理を採用しております。

##### ロ．ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ取引等

ヘッジ対象...変動金利の借入金

##### ハ．ヘッジ方針

内部規程である「市場リスク管理規則」に従い、金利変動リスクをヘッジするために金利スワップ取引等を行っております。

##### ニ．ヘッジ有効性評価の方法

一定期間における金利スワップ適用後の実質金利の変動幅が一定範囲内で固定化されていることを判断基準としております。

#### その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

##### 退職給付に係る負債の計上基準

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

なお、会計基準変更時差異（405,591千円）については、15年による按分額を費用処理しております。

##### 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

## 2．表示方法の変更に関する注記

### (連結貸借対照表)

前連結会計年度まで、流動資産「その他」に含めて表示しておりました買取債権は、資産の100分の5を超えたため、当連結会計年度は流動資産「買取債権」として区分掲記しております。なお、前連結会計年度の流動資産「その他」に含まれる買取債権は1,495,146千円であります。

前連結会計年度において表示しておりました「退職給付引当金」は「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。）の適用に伴い、当連結会計年度より、「退職給付に係る負債」として表示しております。

### 3. 連結貸借対照表に関する注記

- (1) 担保に供されている資産並びに担保付債務は次のとおりであります。

担保資産の内容及びその金額	
建物及び構築物	2,715,389千円
土地	7,561,202千円
投資有価証券	800,122千円
合計	11,076,713千円

担保に係る債務の金額	
一年内返済予定の長期借入金	472,000千円
長期借入金	2,270,000千円
合計	2,742,000千円

- (2) 有形固定資産の減価償却累計額 4,310,398千円

- (3) 当社は「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日公布法律第34号）及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」（平成11年3月31日改正）に基づき事業用土地の再評価を行い、当該評価差額のうち法人税その他の利益に関する金額を課税標準とする税金に相当する金額である繰延税金負債を負債の部に計上し、当該繰延税金負債を控除した金額を土地再評価差額金として純資産の部に計上しております。「土地の再評価に関する法律」及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」第3条第3項に定める再評価の方法については、「土地の再評価に関する法律施行令」（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出する方法及び同条第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価による方法を採用しております。

再評価を行った年月日 平成14年3月31日

再評価を行った土地の当連結会計年度末における時価の合計額は、再評価後の帳簿価額を下回っておりません。

- (4) 当社及び連結子会社におきましては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行と当座貸越契約を締結、うち1行と貸出コミットメント契約を締結しております。また、当連結会計年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	1,470,000千円
借入実行残高	250,000千円
差引額	1,220,000千円

### 4. 連結損益計算書に関する注記

- (1) 固定資産売却益の内訳

建物及び構築物	1,921,813千円
土地	5,928,985千円
借地権	202,747千円
計	3,804,425千円

- (2) 固定資産除却損の内訳

建物及び構築物	67,307千円
機械装置及び運搬具	468千円
器具及び備品	15,203千円
ソフトウェア	534千円
有形リース資産	291千円
電話加入権	12,176千円
解体撤去費	10,065千円
計	106,047千円

## (3) 減損損失の内訳

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類
神奈川県足柄下郡	保養施設	建物及び構築物、器具及び備品、土地
千葉県流山市	不動産の賃貸	建物及び構築物、器具及び備品
東京都新宿区	飲食店	建物及び構築物
東京都港区	不動産の賃貸	建物及び構築物
埼玉県熊谷市	遊戯施設の転貸	建物及び構築物、借地権
北海道札幌市	遊休地	土地
栃木県宇都宮市	レジャーホテル	土地

当社グループは、原則として事業所の所在する物件を単位として資産をグループ化しており、収入の減少により収益性が著しく低下した資産グループにつき、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（510,499千円）として特別損失に計上しております。その内訳は、建物及び構築物221,853千円、器具及び備品5,250千円、土地268,453千円、借地権14,941千円であります。

なお、当資産の回収可能価額は使用価値及び正味売却価額により測定しております。正味売却価額は、不動産鑑定に基づき算定しております。

## 5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

## (1) 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 (株)	増加(株)	減少(株)	当連結会計年度末 (株)
発行済株式 普通株式	80,130,000	-	-	80,130,000
自己株式 普通株式	1,191,954	1,019	-	1,192,973

(変更事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 1,019株

## (2) 配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	78,938	1.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日

基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当金の 総額 (千円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	78,937	利益 剰余金	1.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日

## 6. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、主に銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

受取手形及び売掛金に係る顧客及び取引先の信用リスクは、与信管理規則に沿ってリスク軽減を図っております。また、投資有価証券は、主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

借入金の使途は運転資金及び設備投資資金であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引等を実施して支払利息の固定化を実施しております。なお、デリバティブ取引は借入金及び社債に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引等であります。

### (2) 金融商品の時価等に関する事項

平成26年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位 千円)

	連結貸借対照表 計上額 (* 1)	時価 (* 1)	差額
現金及び預金	4,085,506	4,085,506	-
受取手形及び売掛金	410,904		
貸倒引当金 (* 2)	9,940		
	400,964	400,964	-
短期貸付金	320	320	-
投資有価証券			
その他有価証券	1,813,417	1,813,417	-
長期貸付金	180	180	-
差入保証金 (* 3)	968,298	967,388	909
支払手形及び買掛金	(714,972)	(714,972)	-
短期借入金	(70,000)	(70,000)	-
未払金	(501,550)	(501,550)	-
未払法人税等	(222,476)	(222,476)	-
社債	(180,000)	(176,833)	3,116
長期借入金 (* 3)	(3,273,271)	(3,281,081)	7,810
リース債務 (* 3)	(147,102)	(141,275)	5,827
長期未払金	(12,534)	(12,534)	-
預り保証金 (* 3)	(2,249,941)	(2,247,960)	1,981
デリバティブ取引	-	-	-

(\* 1) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

(\* 2) 受取手形及び売掛金に係る貸倒引当金を控除しております。

(\* 3) 1年以内に期限到来の流動資産に含まれている差入保証金、及び1年以内に期限到来の流動負債に含まれている長期借入金、リース債務、預り保証金を含めております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

現金及び預金 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

短期貸付金 長期貸付金

貸付期間ごとに、合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

## 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

## 差入保証金

返済期間を考慮し、合理的と考えられる割引率を用いて時価を算定しております。

## 支払手形及び買掛金 短期借入金 未払金 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## 社債

元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

## 長期借入金 リース債務

長期借入金及びリース債務の時価については、元利金の合計を新規に同様の借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており（下記 参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

## 長期未払金

支払期間を考慮し、合理的と考えられる割引率を用いて時価を算定しておりますが、時価は帳簿価額にほぼ等しいと言えることから、当該帳簿価額によっております。

## 預り保証金

返還期間を考慮し、合理的と考えられる割引率を用いて時価を算定しております。

## デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。（上記 参照）

- （注2）買取債権（連結貸借対照表計上額1,269,755千円、買取債権に係る貸倒引当金311,438千円）、投資有価証券 非上場株式（連結貸借対照表計上額302,057千円）は、市場価額がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

## 7. 賃貸等不動産に関する注記

### (1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用オフィスビル（土地を含む）を有しております。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は529,116千円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

### (2) 賃貸等不動産の時価等に関する事項

（単位 千円）

連結貸借対照表計上額	時価
10,996,282	14,761,808

- （注1） 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

- （注2） 当連結会計年度末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、その他の物件については「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額であります。ただし、第三者からの取得時や直近の評価時点から、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 170円15銭

(2) 1株当たり当期純利益 10円57銭

1株当たり当期純損失の算定上の基礎は次のとおりであります。

連結損益計算書上の当期純利益	834,571千円
普通株式に係る当期純利益	834,571千円
普通株式の期中平均株式数	78,937,682株

9. その他の注記

記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。



## 個 別 注 記 表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

関係会社株式

移動平均法による原価法によっております。

その他有価証券

時価のあるものについては時価法（評価差額は全部純資産直入法、売却原価は移動平均法による原価法）、時価のないものについては移動平均法による原価法によっております。

#### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

商品及び販売用不動産

販売用不動産は個別法により、その他は最終仕入原価法によっております。

#### (3) 固定資産の減価償却方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、耐用年数及び残存価額については、取得時の法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、改正前の法人税法に基づく償却可能限度額まで償却が終了した翌年より5年間で残存価額と備忘価額の差額を均等償却する方法によっております。

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

長期前払費用

定額法によっております。

#### (4) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、会計基準変更時差異（312,674千円）については、15年による按分額を費用処理しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金支出に備えるため、従来の役員退職慰労金内規にならい、当事業年度末支給額を計上しております。

建物解体費用引当金

建物解体の支出に備えるため、当事業年度末における解体支出の見込額に基づき計上しております。

事業所閉鎖損失引当金

事業所閉鎖に伴う支出に備えるため、当事業年度末における事業所閉鎖に伴う支出の見込額に基づき計上しております。

- (5) ヘッジ会計の方法  
 ヘッジ会計の方法  
 繰延ヘッジ処理によっております。また、金利スワップの特例処理の要件を満たす場合は特例処理を採用しております。  
 ヘッジ手段とヘッジ対象  
 ヘッジ手段.....金利スワップ取引等  
 ヘッジ対象.....変動金利の借入金  
 ヘッジ方針  
 内部規程である「市場リスク管理規則」に従い、金利変動リスクをヘッジするために金利スワップ取引等を行っております。  
 ヘッジ有効性評価の方法  
 一定期間内における金利スワップ適用後の実質金利の変動幅が一定範囲内で固定化されていることを判断基準としております。
- (6) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項  
 消費税等の会計処理  
 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## 2. 貸借対照表に関する注記

- (1) 担保に供している資産並びに担保付債務は次のとおりであります。

担保資産の内容及びその金額	
建物	2,715,389千円
土地	7,561,202千円
投資有価証券	800,122千円
合計	11,076,713千円
担保に係る債務の金額	
一年内返済予定の長期借入金	472,000千円
長期借入金	2,270,000千円
合計	2,742,000千円

- (2) 有形固定資産の減価償却累計額 2,797,664千円
- (3) 当社は「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日公布法律第34号）及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」（平成11年3月31日改正）に基づき事業用土地の再評価を行い、当該評価差額のうち法人税その他の利益に関する金額を課税標準とする税金に相当する金額である繰延税金負債を負債の部に計上し、当該繰延税金負債を控除した金額を土地再評価差額金として純資産の部に計上しております。「土地の再評価に関する法律」及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」第3条第3項に定める再評価の方法については、「土地の再評価に関する法律施行令」（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出する方法及び同条第5号に定める不動産鑑定士による鑑定評価による方法を採用しております。

再評価を行った年月日 平成14年3月31日  
 再評価を行った土地の当事業年度末における時価の合計額は、再評価後の帳簿価額を下回っておりません。

- (4) 偶発債務  
 下記の会社の金融機関等からの借入金に対し保証を行っております。

札幌開発㈱	711,271千円
計	711,271千円

- (5) 関係会社に対する金銭債権債務

短期金銭債権	365,899千円
長期金銭債権	2,565,300千円
短期金銭債務	104,859千円

- (6) 当社におきましては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。当事業年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

当座貸越契約及び貸出コミットメントの総額	1,400,000千円
借入実行残高	250,000千円
差引額	1,150,000千円

### 3. 損益計算書に関する注記

#### (1) 関係会社との取引高

売上高	248,179千円
仕入高	477,224千円
販売費及び一般管理費	23,927千円
営業取引以外の取引による取引高	508,463千円

#### (2) 固定資産売却益の内訳

建物	1,925,819千円
土地	5,928,985千円
借地権	202,747千円
計	3,800,419千円

#### (3) 固定資産除却損の内訳

建物	37,619千円
構築物	229千円
機械装置	353千円
器具備品	4,952千円
ソフトウェア	534千円
電話加入権	5,935千円
解体撤去費	9,270千円
計	58,894千円

#### (4) 減損損失の内訳

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類
神奈川県足柄下郡	保養施設	建物、器具備品、土地
千葉県流山市	不動産の賃貸	建物、器具備品
東京都新宿区	飲食店	建物
東京都港区	不動産の賃貸	建物

当社は、原則として事業所の所在する物件を単位として資産をグループ化しており、収入の減少により収益性が著しく低下した資産グループにつき、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（188,949千円）として特別損失に計上しております。その内訳は、建物167,064千円、器具備品5,250千円、土地16,633千円であります。

なお、当資産の回収可能価額は使用価値及び正味売却価額により測定しております。正味売却価額は、不動産鑑定に基づき算定しております。

### 4. 株主資本等変動計算書に関する注記

#### (1) 発行可能株式総数

普通株式	200,000,000株
------	--------------

#### (2) 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首(株)	増加(株)	減少(株)	当事業年度末(株)
普通株式	1,191,954	1,019	-	1,192,973

(変更事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加	1,019株
-----------------	--------

5. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

流動資産

未払事業所税	3,014千円
未払事業税	6,639千円
賞与引当金	24,519千円
商品評価損	4,578千円
貸倒引当金	7,001千円
資産除去債務	57,024千円
建物解体費用引当金	69,893千円
事業所閉鎖損失引当金	68,428千円
その他	17,801千円
小計	258,901千円
評価性引当額	236,091千円
計	22,809千円

固定資産

退職給付引当金	127,180千円
役員退職慰労引当金	1,363千円
貸倒引当金	648,307千円
減損損失	43,098千円
関係会社株式評価損	131,447千円
投資有価証券評価差額金	12,688千円
資産除去債務	36,624千円
欠損金	92,287千円
小計	1,092,997千円
評価性引当額	1,092,997千円
計	-千円

繰延税金負債

固定負債

資産除去債務	31,614千円
投資有価証券評価差額金	209,170千円
固定資産圧縮積立金	554,532千円
計	795,316千円
繰延税金負債の純額	772,507千円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な

項目

法定実効税率	38.01%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.13%
受取配当等永久に益金に算入されない項目	0.44%
住民税均等割等	1.01%
評価性引当額の増減	39.74%
その他	0.52%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	78.97%

6. 関連当事者との取引に関する注記  
子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)(注4)	科目	期末残高(千円)
子会社	テアトルエンタープライズ(株)	(所有)直接 100.0	資金取引(注1) 不動産賃貸(注2) 役員の兼任	不動産賃貸等	58,815	売掛金	10,290
						未収入金	3,768
				資金の返済	35,000	長期貸付金	1,557,000
	(株)メディアボックス	(所有)直接 100.0	資金取引(注1)	資金の貸付及び返済	60,000	短期貸付金	10,000
						長期貸付金	330,000
	テアトルソフトウェア(株)(注5)	(所有)直接 100.0	資金取引(注1)	債務免除	434,213	-	-
	(株)エイチ・エス・ジー(注5)	(所有)直接 100.0	資金取引(注1) 不動産賃貸(注2)	債務免除	1,810,349	未収入金	3,700
	テアトル債権回収(株)	(所有)直接 100.0	資金取引(注1) 役員の兼任	資金の貸付及び返済	200,000	短期貸付金	290,000
						長期貸付金	20,000
	(有)ディーワンエンタープライズ	(所有)直接 100.0	資金取引(注1)	資金の貸付及び返済	6,000	長期貸付金	228,000
札幌開発(株)	(所有)直接 100.0	資金取引(注1) 債務保証(注3)	資金の返済	12,000	短期貸付金	12,000	
			債務保証	711,271	-	長期貸付金	253,300

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注1) 子会社に対する資金の貸付については、市場金利を勘案して決定しており、返済条件は各子会社との貸付契約によっております。
- (注2) 不動産賃貸等の取引条件は、市場実勢を勘案して当社が希望価格を提示し、価格交渉の上で決定しております。
- (注3) 同社の銀行借入金等に対して債務保証を行っております。
- (注4) 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。
- (注5) テアトルソフトウェア(株)は平成25年10月に解散し、平成26年3月に清算終了しております。また、(株)エイチ・エス・ジーは平成25年10月に解散し、平成26年5月に清算終了しております。

7. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 158円88銭

(2) 1株当たり当期純利益 4円09銭

1株当たり当期純利益の算定上の基礎は次のとおりであります。

損益計算書上の当期純利益	323,002千円
普通株式に係る当期純利益	323,002千円
普通株式の期中平均株式数	78,937,682株

8. その他の注記

記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。